STEP2 鶴弥の防災瓦は、経済的で快適な大変優れた屋根材です。

屋根材を選ぶ際に、価格だけで決めていませんか?
ランニングコスト(メンテナンス費)や快適性を考えれば、鶴弥の防災瓦で決まりです。

高耐久(経済性)

【高額なメンテナンス不要】

鶴弥の防災瓦は釉薬を施し高温で焼き上げた粘土瓦です。塗替えメンテナンスがいらないことも特長の一つです。



■コストとメンテナンスのイメージ図

屋根面積100㎡で、60年間のメンテナンスコスト・シュミレーションを行いました。



トータルコスト	
当社粘土瓦(フリーエアー工法)	化粧スレート
約1,420,000円 (100万+14万×3) フリーエアーロール葺き替え 約4,500円/m×30m/棟	約5,700,000円 (50万+70万×4+120万×2)

遮音

鶴弥の防災瓦は遮音性も優れています。
屋根を打つ激しい雨音も全く気になりません。

当社実験結果



※1分間雨音測定

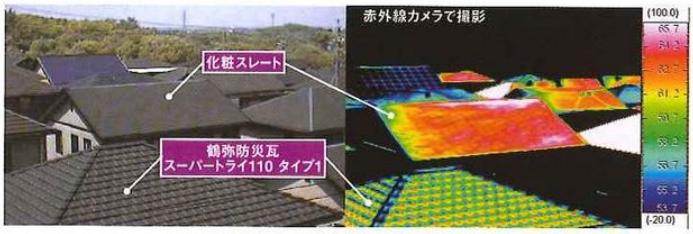
【騒音レベルと身近な音との比較】

50dB	静かな事務所
60dB	普通会話
70dB	騒がしい事務所・電話のベル



断熱(省エネ)

鶴弥の防災瓦は高断熱材です。夏の熱気、冬の冷気も屋内に伝えにくいので1年中快適に過ごせ、冷・暖房の節約に役立ちます。



STEP3 「重い屋根=耐震性が低い」という誤解



上の写真は昭和50年(1975年)に建てられた物件を耐震補強ありと補強なしを実物件で比較した耐震実験です。
耐震補強を行うことで昭和56年以前に建てられた物件も新耐震基準レベルまで耐震強度を上げられることが実証されました。また、瓦屋根の安全性も実証されました。



昭和56年以前のお宅は、
耐震診断・補強を行うことを
おすすめします。

世界でも有数の地震国、日本。ひとたび大地震が発生すれば、その被害は図りしれません。倒壊した家屋、散乱した瓦…。こうしたシーンがTV画面に何度も映し出されることで、いつしか「瓦屋根の住宅は重いので地震に弱い」という風評が広がってしまいました。しかし「住宅がなぜ倒壊したのか」、その原因究明が進むにつれ、じつは「倒壊の主因は屋根の重さではなく、建物そのもの(柱、土台、壁など)」にあることが明らかになっています。



化粧スレート

地震による家屋への被害発生要因

●軟弱な地盤
地震動が増幅されやすく、さらには液状化、沈降などにより地震被害が拡大します。

●構造躯体部の強度不足
旧耐震基準(昭和56年以前)で設計・建設された住宅は、建物重量に対する必要壁量が少なく、地震被害を受ける恐れが高くなります。
※建築基準法の必要壁量は最低基準のため、昭和56年以前に建設された住宅がすべて新耐震基準を満たしていないわけではありません。

●家屋の形状、バランスの悪さ
耐震性を軽視した設計や増改築により家屋の形状・重量分布のバランスが崩れ、地震による被害を受けやすくなります。

地震被害にあった住宅の傾向

●おおむね築50年以上の住宅に集中
阪神淡路大震災で被害にあった2階建て木造住宅(1,508棟)のうち、築40~50年以上の住宅が約4割以上を占めていました。
一方、昭和60年以降に建設された住宅の被害は1割にも達していません。つまり被害にあった住宅の多くが「旧耐震基準」であったと類推できます。

●軽い屋根の住宅も被害
築50年以上経過していた被害住宅446棟のうち、金属屋根やスレート屋根など、いわゆる「軽い屋根」の住宅も9%含まれていました。